

(様式第1号)


平成30年10月26日

認定介護福祉士認証・認定機構
理事長 大島 伸一 様

領域名：認知症に関する領域
科目名：認知症のある人への生活支援・連携
単位数：2
認証申請する研修の名称：認定介護福祉士養成研修

団体名：一般社団法人岡山県介護福祉士会
団体事務所の所在地：〒700-0807
岡山市北区南方2-13-1 きらめきプラザ7階
電話：086-222-3125
FAX：086-222-6780
E-mail：okayama-kaigo@woody.ocn.ne.jp

下記書類を添えて上記科目に対する研修の認証を申請します。

団体代表者：会長 安達 悦子 
申請責任者：事務局長 神實 誠子

記

○認定介護福祉士研修認証申請書（別紙1～3）

<機構使用欄>

受付	
確認	
委員付託	
追加連絡	
評価報告	
理事会承認	
認証番号	

(別紙1) 認定介護福祉士研修認証

※申請受付番号

(※は記入しないでください)

認定介護福祉士研修認証申請書

申請年月日	平成30年10月26日
申請団体名	一般社団法人岡山県介護福祉士会
申請団体代表者氏名	会長 安達 悦子
申請責任者職名	事務局長
申請責任者氏名	神寶 誠子
団体住所	〒700-0807 岡山市北区南方2-13-1 きらめきプラザ7階
同 Tel・Fax	Tel : (086)-(222)-(3125)
メールアドレス	Fax : (086)-(222)-(6780) E-mail <u>okayama-kaigo@woody.ocn.ne.jp</u>
申請対象の領域	領域名 : 認知症に関する領域
科目名 (単位数)	科目名 : 認知症のある人への生活支援・連携 (2単位)
申請する研修名	認定介護福祉士養成研修
研修認証実績	年 認証番号 ()
	年 認証番号 ()
	年 認証番号 ()
その他特記事項	

(別紙2) 認定介護福祉士研修認証

認証申請科目に対する研修の内容

申請対象の領域	認知症に関する領域	
科目名	認知症のある人への生活支援・連携	
(1) 提供する研修について		
研修名	認定介護福祉士養成研修	
教育目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症のある人が地域において自立した生活を営めるように実践的な知識と技術を獲得させるとともに、他の介護職への指導及び認知症のある人を取り巻く環境を形成する他職種や地域との連携を通じて支援していけるようにさせる 	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症に関する生活支援に必要な医療的知識を習得し、他者に説明できる。 ・ 認知症の生活支援に必要な知識・技術を習得し、実践できる。 ・ 認知症におけるリハビリテーションの重要性を理解し、他者に説明できる。 ・ 認知症支援に関する社会制度、政策等を理解し、他者に説明できる。 ・ 認知症のBPSDを理解し、よりよい対応ができる ・ 症状や使用している薬等から利用者の状態を分析し、適時・適切なケア方法や医療等の他職種連携の必要性について判断できる。 	
研修内容（研修プログラム）	含むべき内容	研修プログラム
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 認知症（MCI、アルツハイマー病の認知症、血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭葉型認知症、若年性認知症等）について <ul style="list-style-type: none"> ・ その機序、主な症状、生理学的要因、診断・治療、経過・予後、よく使われる薬、生活上の留意点 ○ 認知症の生活支援に必要な知識・技術（リハビリテーションを含む） <ul style="list-style-type: none"> ・ 疾患別、ステージ別アプローチ ・ パーソンセンタードケア等の理解 ・ 環境調整 ・ BPSDに対応できるより良いケアの理解 ・ 家族介護者への支援 ○ 認知症支援に関する社会制度等 ○ 他職種連携等の基礎的な知識 <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症に関するアセスメントツール（DASC-21、Zarit B、DBD13、HDS-R） ・ 医療職との連携 ・ リハ職との連携 	<p>事前課題1 自職場の事例を「ひもときシート」を用いて分析する。（3時間）</p> <p>事前課題2 課題1で分析した事例のアセスメントを実施する。（3時間）</p> <p>事前課題3 事例を用いて認知症の人と家族・地域を「エコマップ」でまとめる（3時間）</p> <p>事前課題4 認知症の人とのやり取りを「シナリオレコード」を記入し分析して考察する。（3時間）</p> <p>事前課題5 自職場のある自治体の認知症施策と職場周辺の認知症ケアの資源についてまとめる。（3時間）</p> <p>事前課題1～5について A4 5枚程度にまとめる。</p> <p>1. パーソン・センタード・ケアから行動の背景をひもとく。</p> <p>脳の器質性疾患による認知機能障害について、事例（事前課題1、2）を通じて理解する。</p> <p>（講義 1時間 演習 2時間）</p> <p>(1) 心理的理解について</p> <p>① 行動心理的アプローチ</p> <p>② ストレスに対する対処行動</p> <p>(2) 生活歴から</p> <p>① ライフレビュー（ライフヒストリー）</p> <p>② レミニッセンス（回想的アプローチ）</p> <p>(3) 認知症の種類</p>

	<p>① 認知症の種類 (MCI、アルツハイマー型認知症、血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭葉型認知症、若年性認知症) ごとの機序、主な症状、生理学的要因、診断・治療、経過・予後、生活上の留意点</p> <p>(4) 健康状態</p> <p>① 認知症の人に及ぼす生活リズムの障害</p> <p>② 便秘、空腹、疲労、不眠、痛みなど身体的苦痛</p> <p>③ 薬の副作用、抗精神病薬の弊害等について</p> <p>(5) 家族やスタッフからのアプローチ</p> <p>① 悪性の社会心理の理解</p> <p>② 不適切なケア</p> <p>2. 認知症の人が抱く心理的ニーズについて、認知症の人が置かれている状況が「ニーズが満たされていない状況」か「ニーズが満たされていない状況」の背景について事例 (事前課題 3) を使い理解する。</p> <p>(講義 1 時間 演習 2 時間)</p> <p>(1) 認知症の人が抱く心理的ニーズの理解</p> <p>(2) アセスメントにより、ニーズを満たすための課題を明らかにする。</p> <p>3. 認知症の人への環境アプローチの意義について</p> <p>(講義 1 時間 演習 2 時間)</p> <p>(1) 物理的環境、社会的環境、精神的環境について事例を通じてその重要性を理解する。</p> <p>(2) PEAP を用いて環境改善の演習</p> <p>4. 認知症の人を支援するための多職種協働について</p> <p>(講義 1 時間 演習 3 時間)</p> <p>(1) 認知症ライフサポートモデルについて</p> <p>(2) 多職種協働 (医療職、相談援助職、リハ職、行政、地域住民) との演習</p>
--	--

	<p>5. 認知症の人と家族の支援 (講義 1 時間)</p> <p>(1) 認知症の人と家族の負担感と支援のズレについて事例 (事前課題 4) を通じて理解する。</p> <p>(2) 家族支援のためのアプローチの実際を理解する。</p> <p>6. 認知症支援に関する社会制度 (事前課題 5) (講義 1 時間)</p> <p>(1) 認知症ケアの歴史から制度の変遷を理解する</p> <p>(2) 認知症の人当事者の声を反映した政策</p> <p>① イングランド認知症国家戦略</p> <p>② 新オレンジプラン</p> <p>③ 認知症ワーキンググループ</p> <p>(3) 認知症の人と共に作る社会について</p>
研修方法	<p>■ 集合研修</p> <p>■ 課題学習</p> <p>-----</p> <p>○ 集合研修講義と演習を組み合わせで行う。</p> <p>○ 課題学習は事前課題として、レポート課題を課す。評価は担当講師が行う。</p>
研修時間	30 時間 (集合研修 15 時間、課題学習 15 時間)
修了要件	<p>○ 全課程の出席を要する。公共交通機関の影響、冠婚葬祭、担当する利用者の急変といったやむを得ない事情による遅刻、早退については合計 30 分 (遅刻、早退それぞれ 15 分) を上限として認める。やむを得ない事情による 30 分以内の遅刻・欠席があった場合は、当該科目の講師資料またはテキストによる課題を提出する。</p> <p>○ 修了評価として行う筆記試験 (50 問程度) において、A~C 評価 (100 点満点中 60 点以上) であること。D 評価 (59 点以下) の場合は、再試験を行い、A~C 評価とならなければならない。なお、再試験は複数回の受験を可能とする。</p>
講師要件 (講師の選定基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当該科目における十分な知識・専門性を有し、講師等の教育経験がある者 ・ 補助者についても当該科目における十分な知識・専門性を有し、講師等の教育経験がある者
(2) 受講者について	
受講対象 (受講要件)	単位取得できるのは介護福祉士資格を有するものであること。
修了評価	<p>筆記試験 (50 問程度) により行い、100 点~80 点を A 評価、79 点~70 点を B 評価、69 点~60 点を C 評価、59 点以下を D 評価とする。A~C 評価 (100 点満点中 60 点以上) で修了とする。</p> <p>演習も評価に加味する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 演習 (グループワーク) の発言、参加度 ・ 問題提起し、課題解決にむけて、支援方法の検討を積極的にすすめることができていたか ・ 本人や家族の立場になって考えられる発言があるか ・ グループリーダーとしての能力
(3) 研修の環境条件	
定員 (講師の配置基準)	30 名 (講師 1 名) 演習時も同じ講師で行う。受講生 15 名に対し 1 名のファシリテーターを配置する。

開催場所（都道府 県）	
----------------	--

(別紙3) 認定介護福祉士研修認証

認証申請する研修の実施体制等 (届出事項)

(1) 研修の実施予定	
実施日	① 2020年6月予定
	②
	③
開催場所 (会場)	① 岡山県総合福祉・ボランティア・NPO会館
	②
	③
(2) 講師	
担当、氏名及び略歴	担当講師 (講義・演習・評価): 宮本 憲男 氏
	【職歴】
	平成7年 川崎医療福祉大学 医療福祉学科卒業 平成7年4月～平成11年3月 きのこエスポアール病院に介護職として勤務 (その間出向あり)
	平成11年4月～平成13年3月 サービスハウスえすぼ (ケアハウス) 施設長 平成13年4月 きのこ老人保健施設 グループホーム統括責任者 平成14年4月 笠岡市認知症介護研修センター 主任研修主幹兼務 平成24年4月 きのこ老人保健施設 副施設長就任 平成30年4月 きのこ老人保健施設 施設長 笠岡市認知症介護研修センター センター長
	【講師経験・社会活動等】
<ul style="list-style-type: none">・岡山県認知症介護実践研修/実践リーダー研修/ 管理者研修 講師・日本ユニットケア推進センター ユニットリーダー 研修講師・川崎医療短期大学 非常勤講師 (H19～21年度)・川崎医療福祉大学 非常勤講師 (H27年度～)・順正高等看護福祉専門学校 非常勤講師(H30年度～)・日本ユニットケア推進センター 「ユニットケア研修フォローアップ研修検討委員会」委員・日本介護福祉士会「認知症高齢者の生活の質を高めた 介護方法に関する調査研究委員会」委員・公益社団法人 日本認知症グループホーム協会 岡山県支部「副支部長」兼「理事」・笠岡市社会福祉協議会 評議員	

	<ul style="list-style-type: none"> ・岡山県民生委員・児童委員 ・笠岡市認知症総合支援会議 会長 ・NPO法人 おかやま多機能サポートネット 夢ゆめハウス 理事 ・NPO法人 ヒカリカナタ基金(竹内昌彦理事長) 理事
(3)実施体制	
研修の企画運営の組織 (担当部局・人員)	認定介護福祉士養成研修実行委員会(岡山県介護福祉士会正副委員長・事務局員)10名内常勤2名
研修の企画運営に関する諸規程	岡山県介護福祉士会定款に準ずる
研修管理責任者職名	岡山県介護福祉士会研修委員長
研修管理責任者氏名	松島 智枝美
機構問合せ先部署	岡山県介護福祉士会事務局
機構問合せ先担当者氏名	藤原 美恵子
機構問合せ先電話番号/FAX	TEL 086-222-3125/ FAX 086-222-6780
機構問合せ先 e-mail アドレス	okayama-kaigo@woody.ocn.ne.jp
受講問合せ先部署	岡山県介護福祉士会事務局
受講問合せ先担当者氏名	藤原 美恵子
受講問合せ先電話番号/FAX	TEL 086-222-3125/ FAX 086-222-6780
受講問合せ先 e-mail アドレス	okayama-kaigo@woody.ocn.ne.jp
(4)研修履歴の管理体制	
受講者への付与単位部門	岡山県介護福祉士会事務局
受講履歴の管理方法	<ul style="list-style-type: none"> ■紙媒体及びデータによる台帳管理 ■外付けディスクにバックアップデータを保管する ■データ保存期間は10年間、その後は外付けディスクでデータを保管する。 ■個人情報の取り扱いにあたっては、法律を遵守する。
受講履歴の証明	各科目を修了した時点でその科目の修了証明書を発行し、全過程を修了した者には、岡山県介護福祉士会会長名による修了証明書を発行する。
管理責任者氏名	事務局長 神寶 誠子
管理担当者氏名	事務局員 藤原 美恵子

担当講師の教育活動履歴等

1. 氏名

こぶち じゅんこ
小湊 順子

2. 現在の所属

旭川荘厚生専門学院 介護福祉学科

3. 略歴（職歴、講師経験・社会活動等）

3-1. 職歴〔介護・福祉に関する実務経験、教育・研究活動歴等〕

最終学歴：平成8年3月 岡山県立大学短期大学部 健康福祉学科 児童福祉専攻 卒業

資格：平成8年3月 保育士

平成12年3月 介護福祉士

平成14年3月 介護支援専門員

職歴：平成8年4月 社会福祉法人旭川荘 竜ノ口寮 寮母

平成18年4月 旭川荘厚生専門学院 福祉研究科 専任教員

平成24年4月 旭川荘厚生専門学院 介護福祉科 専任教員

平成25年4月 旭川荘厚生専門学院 介護福祉科 専任講師

平成27年10月 旭川荘厚生専門学院 介護福祉学科 専任教員

平成28年4月 旭川荘厚生専門学院 介護福祉学科 教務主任補佐

平成30年4月 旭川荘厚生専門学院 介護福祉学科 学科長・教務主任

平成31年4月 旭川荘厚生専門学院 介護福祉学科 学科長

3-2. 講師経験・社会活動等〔介護・福祉に関する講師活動、調査・研究・評価等の活動〕

4. 著書等

担当講師の教育活動履歴等
(ファシリテーター)

1. 氏名

増見富海子

2. 現在の所属

専門学校岡山ビジネスカレッジ

3. 略歴（職歴、講師経験・社会活動等）

3-1. 職歴〔介護・福祉に関する実務経験、教育・研究活動歴等〕

H12年3月 旭川荘厚生専門学院 介護福祉科卒業（介護福祉士取得）

H15年3月 川崎医療福祉大学 医療福祉学部医療福祉学科卒業（社会福祉士取得）

H15年4月～H31年3月 特別養護老人ホームみゆき園にて、介護福祉士として勤務

H31年4月～専門学校岡山ビジネスカレッジにて介護教員として勤務

3-2. 講師経験・社会活動等〔介護・福祉に関する講師活動、調査・研究・評価等の活動〕

岡山県介護福祉士会会員として、同会の派遣事業にて実務者研修やキャリア形成事業の講師を経験している。

4. 著書等

集合研修における具体的なコミュニケーション

申請対象の領域 認知症に関する領域
 科目名 認知症のある人への生活支援・連携
 集合研修の総時間数 15時間

1日目 (8時間)

時間	テーマ	展開内容 (講義ポイントや演習の展開内容)	留意事項等	担当講師 (補助講師)
9:15～10:45 90分	<ul style="list-style-type: none"> はじめに 1. 認知症の理解 	<ul style="list-style-type: none"> ○本日の流れと到達目標について ○認知症 (MCI アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭葉型認知症、若年性認知症等) の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・認知症をきたす疾患と治療 ○認知症への誤解と偏見に気づく (事前課題 3) 	<ul style="list-style-type: none"> 演習 ・GWと発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・ファシリテーター (未定) 認知症介護研究・研修センター受講修了者 2名を予定 (受講者 15名につき 1名)
10:45～10:55 10分	休憩			
10:55～11:55 60分	<ul style="list-style-type: none"> ・演習 	<ul style="list-style-type: none"> ○認知症当事者の本当の想いを知る (事前課題 4) 	<ul style="list-style-type: none"> ・DVD視聴 ・GWと発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・ファシリテーター (未定) 認知症介護研究・

				研修センター受 講修了者 2名を予定 (受講者15名に つき1名)
11:55~12:45 50分	休憩			
12:45~14:15 90分	2. 認知症の生活支援 に必要な知識・技 術	<p>○高齢者とその生活の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長年の生活習慣や好みを知る ・個別ケアと自立支援について(事前課題4) <p>○認知症の人への環境アプローチの意義について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心で快適な住まいのあり方を理解する ・リロケーションセッションとは 	<ul style="list-style-type: none"> ・GWと発表 ・GWと発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・ファシリテーター(未定) <p>認知症介護研究・ 研修センター受 講修了者2名を 予定 (受講者15名に つき1名)</p>
14:15~14:25 10分	休憩			
14:25~16:25	3. 認知症支援に対す	○認知症ケアの歴史から制度の変遷を理解する	・DVD視聴	

110分 休憩 10分	る社会制度について	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症対応型共同生活介護事業所の誕生からユニットケアまでの変遷 ・新オレレンジプランから認知症大綱までの変遷 ・認知症ワーキンググループの設立と役割 ・事前課題5の調査を参考に地域のサービスのついて情報共有する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ GWと発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ファシリテーター(未定) 認知症介護研究・研修センター受講修了者 2名を予定 (受講者 15名につき 1名)
----------------	-----------	---	---	---

1時間を45分で換算する

2日目 (7時間)

時間	テーマ	展開内容 (講義ポイントや演習の展開内容)	留意事項等	担当講師 (補助講師)
9:15~10:45 90分	4. 認知症の人が抱く心理的ニーズの理解	<ul style="list-style-type: none"> ○認知症に関するアセスメントツール ・ 認知症の人と家族を把握するうえで必要なアセスメントツールを利用して本人のニーズを理解し、課題を明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前課題 1, 2 	<ul style="list-style-type: none"> ファシリテーター(未定) 認知症介護研

		<p>○疾患別、ステージ別アプローチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な状況において、生活支援の留意点を理解し、問題解決のアプローチについて理解を深める 		<p>究・研修センター 一受講修了者 2名を予定 (受講者15名につき1名)</p>
10:45～10:55 10分	休憩			
10:55～12:25 90分	3. 多職種連携等の基礎的な知識	<p>○認知症の人の自己実現に向けた組織内外の連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別ケアに適した職員配置と勤務の仕組み ○認知症ケアにおける情報共有 ・記録の重要性と会議の在り方 ○認知症の人と家族の支援 ・認知症の人と家族の負担感と支援のズレについて ・家族支援のためのアプローチについて 		
12:25～13:15 50分	休憩			
13:15～14:45 90分	4. 多職種との連携の課題と対応	<p>○認知症ケアにおける情報共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観察、記録、情報共有のポイントを理解し、多職種との検討の場での役割を行使できる 	<p>・演習とGW ・発表</p>	<p>・ファシリテーター2名(未定) 認知症介護研究・研修センター 一受講修了者</p>

				2名を予定 (受講者 15名に つき 1名)
14:45～14:55 10分	休憩			
14:55～15:40 90分	5. 知識と実践の統合	<p>○全体の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二日間を振り返り、自分が目指す認知症ケアの考えを一人五分で発表 	<p>・計画と発表</p>	<p>・ファシリテーター(未定) 認知症介護研究・研修センター受講修了者 2名を予定 (受講者 15名に つき 1名)</p>

1時間を45分で換算する